

令和5年11月28日  
航空局航空戦略室

## 国際民間航空機関(ICAO)航空及び代替燃料に関する第3回会合(CAAF/3) の結果概要について

11月20日～11月24日に、国際民間航空機関(ICAO)航空及び代替燃料に関する第3回会合(CAAF/3)<sup>※1</sup>がドバイ(アラブ首長国連邦)で開催され、SAF<sup>※2</sup>の利用促進に関する議論が行われました。

会議では、日本・米国・シンガポールの3か国が共同で、SAFの利用促進に関する「グリーンレーン構想」の政策コンセプトの提案を行いました。また、2030年までにSAFの利用により、5%の炭素削減を目指す中間目標の設定が合意されました。

※1 CAAF/3(The third Conference on Aviation and Alternative Fuels:  
航空代替燃料に関する第3回会合)

※2 SAF: 持続可能な航空燃料(Sustainable Aviation Fuel)

### 1. 「グリーンレーン構想」について

航空脱炭素の推進、特にSAFの利用には地域的な取り組みが重要であり、特に我が国は太平洋地域の主要な航空国と連携することが必要です。

「グリーンレーン構想」は、SAFの利用促進のみならず、管制、空港等を含めた航空分野における脱炭素の連携を強化するため、日本・米国・シンガポールで共同提案した政策コンセプトです。今後、本構想の具体化に向けて、3か国で詳細な検討を進めていく予定です。

### 2. 中間目標の設定について

昨年10月に開催された国際民間航空機関(ICAO)総会において、国際航空分野における脱炭素の野心的な長期目標として、2050年までのカーボンニュートラルが採択されたところです。

これを踏まえて、今次会合では、航空分野における脱炭素の主要な手段であるSAFの利用促進のため、2030年までにSAFにより、5%の炭素削減を目指すグローバルな目標が新たに合意されました。

この数値目標の合意により、航空関係者およびSAF製造者に対して、さらなる利用・投資促進などの効果が期待されます。

#### 【問合せ先】

航空局 航空ネットワーク部 航空戦略室 砥上、槇山  
TEL: 03-5253-8111 (49415、49418)、03-5253-8722

## グリーンレーン構想の共同提案



(左から、大沼俊之航空局次長、ハン・コク・ジュアン(Han Kok Juan)シンガポール航空局長、アニー・ペトソ  
ンク(Annie Petsonk)米国運輸省次官補)